

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

お

男子 女子 1回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
瓊浦	29	14	10	富岡東
		15	20	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

1回戦、富岡東のスローオフ、4番鎮西のロングシュートで試合は始まった。すぐさま瓊浦5番井上の連続3得点で、まず瓊浦がリズムをつかむ。前半早々に富岡東に退場が出たが全員で守り、苦しい時間帯をしのいだ。その後両チームともDFを固め、得点の入らない時間帯が続くが、瓊浦がじわじわと点差を広げていく。20分過ぎ、富岡東タイムアウト。タイムアウト後勢いづく富岡東、速攻から相手DFと絡み瓊浦退場。両者一步も譲らないゲーム展開となった。瓊浦6番宮村のシュートが決まり、14-10瓊浦リードで前半を終了した。後半まず得点したのは富岡東、松本のサイドシュート。富岡東伊原の好セーブから3番松本が速攻で得点。追いつける富岡東に対し、瓊浦は9番前田のロングシュートなどで点差を広げていった。後半12分、瓊浦2人退場をきっかけに、富岡東は連続速攻で得点。1点差まで追いあげる。その後一進一退、目の離せない熱い攻防を繰り返す。後半27分富岡東安田の速攻で同点。さらに安田が決め逆転した。瓊浦9番ロングで同点にするも、勝負を決めたのは富岡東伊藤の捨て身のポストシュート。そして富岡東のキーパー好セーブ。30-29で富岡東が勝利した。

2016年 3月 24日

記載者氏名 弦巻 美和

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

か

男子 女子 1 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
聖和学園	20	5	12	大分
		15	14	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

大分のスローオフで試合開始。開始早々佐藤の中央からのステップシュートで大分が先取点。どちらも硬さが見られる中、速攻も交えながら大分が続けて得点を重ね4対0。聖和はシュートを打つも決まらず苦しい時間が続く。10分近くにようやくサイドから斎藤がシュートを決める。続けて、7mスローを含め聖和が2点差まで追上げる。20分あたりまで互角にゲームは進むが、20分すぎ大分が連続得点、その後少しずつ差を広げ、大分が立ち上がりのリードを有利に生かした形で前半を終える。

後半最初の得点は聖和の石井。続けて、大松の7mスローで聖和の追い上げムードが高まる。聖和は、ディフェンスも修正され、石井の連続得点もあり4点差につめる。10分過ぎたあたりから大分もポストを中心に盛り返し10対5。その後は両チームとも攻守にわたって粘り強く、一進一退の競り合いが終了間際まで続く。特に、残り5分、大分の佐藤、聖和の大松の活躍が目立ち、後半は聖和が1点リードするも。26対20で大分が逃げ切った。

2016年 3 月 24日

記載者氏名 石井 慎也

戦 評 用 紙

男子

男子・女子 1 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
小松工業	41	<table border="1"> <tr> <td>18</td> <td>—</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>—</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	18	—	16	23	—	20	—			—			—			7mTC			36	駿台甲府
18	—	16																				
23	—	20																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

1 回戦 3 試合目。駿台甲府のスローオフで試合開始。序盤は両チームともにオーバーステップが多く、小松工業・本多のファインセーブを連発する好プレーもあり、互いに得点を許さない展開に。3 分 23 秒、小松工業・和田のシュートを皮切りに 3 連続得点を挙げ均衡が破られる。一方、駿台甲府は 4 分 42 秒に依田のシュートで得点を挙げる。その後は小松工業のペースで試合が進み、駿台甲府は 12 分 49 秒にタイムアウト。マンツーマン DF に変更すると一気に流れが駿台甲府に傾く。小松工業に乱れが生じるとその隙を逃さず連続して得点。7 点差を 2 点差まで縮める凄まじい追い上げを見せ、前半を終える。後半は小松工業が先制。連続得点を決め再び点差を広げるが、13 分 33 秒、14 分 56 秒と退場が続いた隙を狙われる。その後は互いに点を取り合う譲らぬ展開となったが、最後まで集中力を切らさなかった小松工業が終盤に連続得点を挙げ、逃げ切った。

平成 28 年 3 月 24 日

記載者氏名 石田 聡

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

く

男子 1 回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点				総得点	チーム名
佐賀清和	24	10	—	10	25	帝京安積
		14	—	15		
		—				
		—				
		—				
		7mTC				

スローオフ、先制ともに佐賀清和。帝京安積が1点を返すのは5分過ぎ。その後佐賀清和の小野と西岡が3点ずつ挙げて15分終了時は6対1とリード。しかし帝京安積も17分から森川、増子、小沢が連続得点して7対7の同点に。双方3点ずつ取り合い、前半を10対10で終了。帝京安積の小沢、樽川の、パスカットやこぼれ球からの速攻、佐賀清和の日下のシュート力は見事だった。後半に先制したのは帝京安積。相手のパスミスに乗じては得点し、9分には4点差とする。その後双方点の取り合いとなる。帝京安積森川の突破力とシュート力は見事だ。終了1秒前、佐賀清和の森崎の執念のシュートが決まるも、帝京安積が1点差で逃げ切った。

2016 年 3 月 24 日

記載者氏名 青木 宏